

KENKO TIP

2016年11月24日



アステラス製薬から画像をお借りしました。

機能性ディスぺプシア

医学博士 精神科専門医 精神保健指定医 産業医 佐野 秀典

機能性胃腸症=FD Functional Dyspepsia

内視鏡検査などで胃に潰瘍やポリープ、腫瘍などが認められないのに、胃のもたれや痛みなど不快感を感じる症状のことを**機能性胃腸炎**といいます。これまで、神経性胃炎、慢性胃炎などと診断されてきましたが、胃の粘膜に何の異常もないのに、胃の粘膜に炎症があるという意味の「胃炎」を使うことは正確ではないということから、近年別に診断がされるようになってきたのです。

診断基準では、胃の粘膜に炎症がないことが前提になってはいますが、広義に捉えれば、**胃炎、胃ポリープ、逆流性食道炎などの所見があった方で服薬ではなかなかその症状が改善しないことがあり、上記の症状が長期間続いている場合、FDとして診断される場合**もあります。

症状としては、上図の吹き出しにある4つが一般的ですが、MDの会員の方から特に多く寄せられる相談が**体の左側の痛み**です。それ

も背中から脇腹にかけて痛みがあり、腸も不快感が続くという症状。仕事の疲れが緊張で胃の機能が低下し、お酒が入るとリラックスして胃の動きが正常化する方もいます。臨床上、次の2つの症状を観察しています。

タイプA 食後愁訴症候群

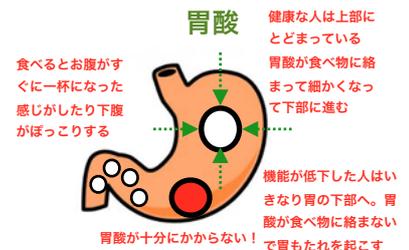
食後に起こるもたれ感を中心としたタイプ。食べるとすぐに満腹になるのですが、お酒が入ってくると食欲が戻ってきたりします。

タイプB 心窩部痛症候群

胸から上腹部に痛みを感じるタイプ。特に空腹時、仕事が忙しい時、憂鬱な気持ちが続いた時に症状が顕著に現れます。

いずれかの症状があるか、**両方の症状が出る**方もいます。

数年前に発売されたFDの新薬「アコチアミド」が効果を発揮しています。その他、それぞれの症状に応じて多数の薬からチョイスして、



組み合わせを決定します。薬の効きが人によって異なるので、一番合うお薬が見つかるまでに若干時間がかかりますが、決まれば10日程度で症状はすっかり改善します。強いストレスがある方には抗不安薬も有効です。副作用は心配ありません。

生活全般の改善はもちろん大事ですが、自己努力では胃の機能を回復させるのはなかなか容易なことではありません。不快な症状をまずお薬で改善し、そこから生活習慣の見直しをしていく方が賢明な選択と言えるでしょう。自分に当てはまると思われる方はご相談ください。